

有する能力に応じたケアの 実践に向けて

～「自分らしく」暮らすことを支えるために～

東京都 グループホーム『つつじの夢』

発表者：宮川 里織

共同研究者：スタッフ一同



はじめに

BPSD(行動・心理症状)は、介護者にとって「困りごと」、
「認知症のせいだから、どうにもならない」



「東京都認知症介護実践者研修」に参加し、改めて、行動の背景にある
ご本人の気持ちを推測し、その方の視点や立場で考えることの大切さ
を再認識した



「有する能力」に着目したケア

事例（Bさん）

女性 83歳 要介護3 IIIa 前頭側頭型認知症 長谷川23点 屋内は歩行器使用
入居後3ヶ月経過

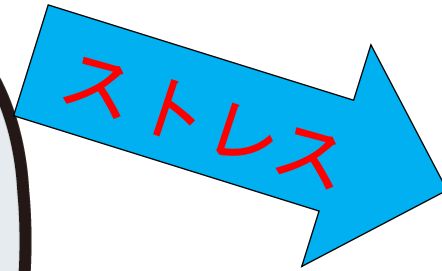
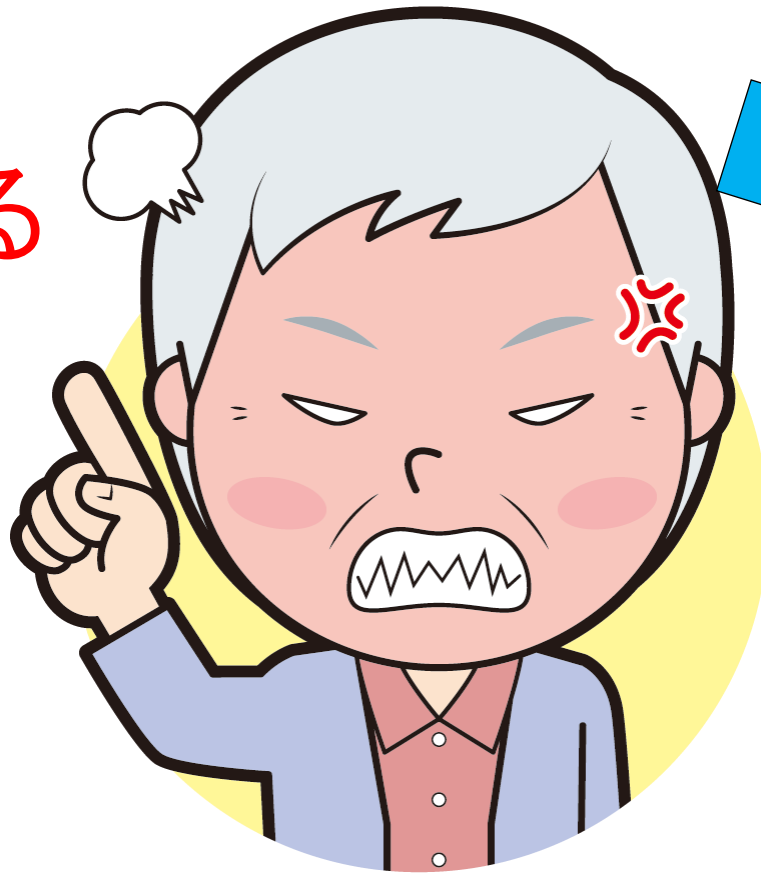
- ・思ったことや感じたことをそのまま荒々しい口調で発言する
 - ・ご自分の通りたい場所が少しでも狭いと、故意に歩行器をぶつけ、「邪魔だよ！どきな！」と大声を出す
 - ・常に周囲の事が気になり、他の入居者の言動を批判する
- ※「私が言わないと誰が言うのよ」という反面、「共同生活だから我慢しないとね」とおっしゃる



まわりの人が気になるが、共同生活の理解はある

『相手を気遣うことができる力』

幼い頃の 長女としての 責任が残ってる



具体的に取り組んだケア



心地よく
過ごして
いただく



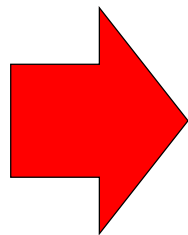
大きめのリアクションを図る

1人になる時間も必要

実践した結果



邪魔だよ！
どきな！

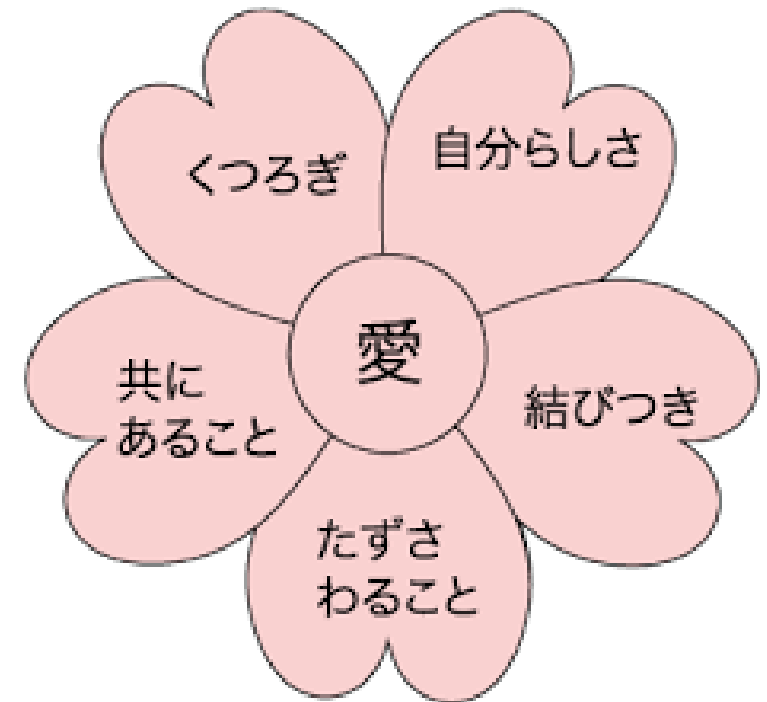


いつもありがとう
気をつけてね

改めて パーソンセンタードケアとは



- ・ その人の視点や立場に立って理解しながら、ケアを行う
- ・ その人の生活歴や、習慣、趣味や性格などの背景に注目して支援する



まとめ

- 「有する能力」とは、日常生活がここまで遂行できるという「残された能力」ではない
- 集団生活の中で適合していない言動(＝問題となり得る言動)も本来ご本人が持っている能力として捉え直すことができた
- 「有する能力」にマッチした支援方法を確認する事が、自立した生活につながる
- ご入居者の表情や反応に変化が見られたことで、職員の表情や考え方にも変化が見られた
- 「有する能力」の認識を改め、ご本人とのかかわり方を見直すことで、『ご本人らしさが活かせる支援』ができる風土ができた





ご清聴ありがとうございました